

新規コンパニオン診断システム

「オンコマインDx Target Test マルチ CDxシステム」の現況

病理診断科 江河勇樹 森木利昭

がんゲノム医療

- 患者さん一人一人のがんの遺伝子異常に基づいた治療選択を行うことを目的とする
- 「パネル検査」保険適用(56,000点)

パネル検査(56,000点)

- NGSを用いて、100種類以上の遺伝子を網羅的に解析する
- ゲノム医療拠点病院・連携病院ではない当院は算定できない

オンコマインDx Target Test マルチ CDxシステム

- NGSを用いて46遺伝子の変異が同時に検査可能
- 本邦では非小細胞肺癌の治療法選択目的に保険収載
(どこでも算定可能 11,700点)

- NGSは従来よりも複雑な検査であり、信頼性の高い結果を得るには、より厳密な精度管理が必要
- 当院では算定できないといっても、患者希望や紹介はありうるので、準備は必要 → オンコマインで仮評価

当科における実施実績 (2019年6月～2020年2月)

総件数 9 (全て手術検体)

DNA/RNAともに検出 6

DNAのみ検出 3

まとめ

- 全例で検索可能なDNA品質が得られており、がんゲノム医療の需要にも応えうる
- RNA品質の保持にはより厳密な固定前・固定プロセスが求められるため、臨床科とも連携し、さらなる精度向上に努める必要がある(保冷、MT、芋掘り標本整理)
- 生検検体(あるいはセルブロック)での実績がなく、今後の症例集積が求められる